

# ハーブソン Hokkaido 2018

## 結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

## はじめに

「ハーブソン Hokkaido 2018」は、2018年4月14日～8月19日までの期間に、北海道爬虫両棲類研究会主催で行われました。本年も事故のなく無事に速報報告できて安心しております。ご参加・ご協力下さった方々に御礼申し上げます。また、様々な地域での講演、ハーブソン説明会の実施にご協力いただいた施設の皆様にも大変感謝しております。

今回の速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2018年～2020年のデータの蓄積の上取りまとめ、報告書を作製する予定であります。

2018年度のハーブソン実施、及び速報報告の作製は、「ほっくー基金北海道生物多様性保全助成制度」の支援を受けて行いました。

北海道爬虫両棲類研究会  
副会長 徳田龍弘

## 調査の結果について

**参加チーム数:** 24 チーム(昨年比+2)

ばいかだ / チームやまはな / 自然ウオッチングセンター / とちかへいや生物部 / アマアマアマアママガエル  
チームばにら / ざりがに探偵団ビッキーズ / あげは / ぽんじろう / 浦幌町立博物館 / 志熊科学教育研究会  
SIRO / チーム西堀 / HHS 観察会 / 木村カエル / talone / ノルドカツツェ / 栗山キッズクラブ / チームくろまつない  
栗 we are all one / あばしり / サンセウウヲ捜索隊 / えりも生き物調査隊 / さっぽろ生き物さがし 2018

**参加者数:** のべ 94 名(昨年比-18) ★「さっぽろ生き物さがし 2018」は、各参加チーム代表者数を計上

**調査されたエリア:** 125 エリア(昨年比-15)

**期間内調査で確認された種:** 17 種(昨年比-3)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ / シロマダラ / ニホンマムシ  
クサガメ / ミシシippアカミミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル / エゾアカガエル  
アズマヒキガエル / ウシガエル / ツチガエル / トウキョウダルマガエル / トノサマガエル

**頂いた生息データ数:**

正式記録(確認データあり): 318(-25), 参考記録(確認データなし): 78(+63)

その他の期間記録(確認データあり): 61(+26), 特殊記録(参加者以外からの情報提供): 5

番外(史跡名勝)データ: 2

**各詳細データについて**

速報データは以上です。細かな種ごとの分布や検討については、2020年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido 2018-2020 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

## 受賞等について

「ハーpson Hokkaido 2018」では、一生懸命調査を下された方々に4賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状及び粗品を大会時に贈呈する予定です。大会に来られない受賞者には年度末までに発送いたします。

### ★最優秀賞

ハーpson期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者: **アマアマアマアマガエル**(12種)

2位: ざりがに探偵団ビッキーズ(8種)      3位: チーム西堀、talone、栗山キッズクラブ(7種)

### ★ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーpson期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者: **talone**(17 エリア・抽選により決定)      次点 : 自然ウォッチングセンター(17 エリア)

### ★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが複数おりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者: **ノルドカツツエ**(1種)

### ★中島宏章賞(写真賞)

調査写真から、特に写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏

( <http://hirofoto.com/> )に選定していただきました。

これらの写真(応募のあった写真)については、2018年1月27日に行われる、北海道爬虫両棲類研究会大会にて飾る予定です(2L版)

受賞者: **チームばいら**(写真題: 湿原の青玉)

次点 : **アマアマアマアマガエル**(写真題: 華麗なるV字飛行)



湿原の青玉



華麗なるV字飛行

## おわりに

この発行物は速報ですので、簡易な発表になっております。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、2020年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハーpson Hokkaido 2018-2020 結果報告書」にて報告する予定です。

ハーpson Hokkaido 2018の実施にあたり、参加者獲得のために本年度は、美幌及び黒松内でハーpsonの紹介などを講演等の内容の一部に含めさせていただいてお話しをさせていただきました。各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度は「ほっくー基金北海道生物多様性保全助成制度」を受け、活動をさせて頂き、講演会や配送物の送料、印刷料金に活用させていただきました。

ハーpsonに参加をしてくださる方々も増え、データ数が多めの数に安定してきました。この調子で2019、2020とデータを蓄積して深い考察ができればいいなと思います。

結果については特に気になるところでは、アズマヒキガエルが札幌市内の山地で確認されたことです。経緯はわかりませんが人による何らかの持ち込みが原因と考えられ、来年以降の分布の拡大が心配されます。これ以上の分布の拡大を防ぐためにも、一般の方々への身近な外来種を広げないための認知の促進を行わなくてはならないと思います。会員の皆様、参加者の皆様もアズマヒキガエルやトノサマガエルなど外来種を野外に放さないよう、お知り合いなどに積極的にお話をしていただけたら幸いです。また、本期間以外の期間外の記録もたくさん頂きました。これも、大変重要な記録ですので、ありがたく拝受いたしました。2020年発行の報告書に反映したいと思います。

今回は「さっぽろ生き物さがし」の事務局と連携し、ハーpsonにも一緒に報告していただく試みや、スマホアプリの「生き物ログ」を用いて、一部参加者の方にご報告いただく試みをしました。フラワーソソ経由での報告も多数頂けて、参加者、データの増加に繋がられました。アプリでは使用してみて、問題となる点もありましたが、アプリの制作者にその問題を報告し、先日その点が解消されたとのことご連絡を頂きました。

ハーpsonは一般への認知がまだ不十分であることは否めないため、今後も調査の認知を上げるための方法を考えていきたいと思っております。

ハーpsonはデータを蓄積することに意味があります。来年度もデータを蓄積していく予定で進め、速報の発行や、賞授も行う「ハーpson Hokkaido 2019」を実施する予定です。結果の取りまとめについては2020年度に2018-2020年度のものをまとめた報告書を作成したいと考えております。開催の時期が近づきましたら、お知らせいたしますのでぜひご参加下さい。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

なお、昨年まで行われてきたハーpsonの2012年～2017年の結果や試みについて、ポスター発表「一般参加型両生類爬虫類調査「ハーpson Hokkaido」の実施の試み」として第57回日本爬虫両棲類学会(2018年11月24、25日)で発表いたします。

執筆: 徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・副会長)

〒005-0021

北海道札幌市南区真駒内本町7-4-27

北海道爬虫両棲類研究会事務局内

会長 徳田龍弘